



大阪科学・大学記者クラブ 御中

2016年7月19日  
公立大学法人大阪市立大学広報室

## 人工光合成研究センターが文科省「共同利用・共同研究拠点」に認定 「人工光合成研究拠点」キックオフ・セミナーを開催します

大阪市立大学 人工光合成研究センターは、文部科学省より平成28年度からの「共同利用・共同研究拠点」としての認定を受け、併せて「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～スタートアップ支援～」に採択されました。(文部科学省 Web サイト [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kyoten/](http://www.mext.go.jp/a_menu/kyoten/))

本センターが人工光合成研究分野で我が国の学術研究の基盤強化と進展を牽引する拠点として新たに認定されたことを受け、下記のとおりキックオフ・セミナーを開催いたします。文部科学省による事業の説明、当該分野における第一人者である首都大学東京特任教授 井上晴夫氏による記念講演など、我が国における人工光合成研究の現状とその最先端に触れるまたとない機会です。是非ご取材ください。

### 記

- 1 日 時 平成28年8月17日(水) 14:00～16:00
- 2 場 所 大阪市立大学 杉本キャンパス 学術情報総合センター1階 文化交流室  
(JR 阪和線「杉本町(大阪市立大学前)」駅下車 徒歩5分)
- 3 内 容 【開会あいさつ】 学長 荒川 哲男

文部科学省「共同利用・共同研究拠点」および  
「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～スタートアップ支援～」事業について  
文部科学省研究振興局学術機関課 課長補佐 坂場 知行氏

【記念講演】「人工光合成の現状」  
首都大学東京大学院都市環境科学研究科 特任教授 井上 晴夫氏

【人工光合成研究拠点の紹介】 人工光合成研究センター 所長 天尾 豊

【閉会あいさつ】 産学官連携推進本部長 宮野 道雄

- 4 定 員 90名
  - 5 参加費 無料
  - 6 参加申込み
    - ・Webでのお申込み <http://recap.osaka-cu.ac.jp/ap-coe/>
    - ・メールまたは電話でのお申込み
- ①所属②役職③氏名④連絡先を下記問合せ先までご連絡ください。※8/12(金)締切

### 【本件に関するお問い合わせ先】

大阪市立大学 人工光合成研究センター 担当: 安田・四方  
TEL: 06-6605-3721 FAX: 06-6605-3174  
E-mail: [toiawase@recap.osaka-cu.ac.jp](mailto:toiawase@recap.osaka-cu.ac.jp)

(拠点認定の概要と人工光合成研究センターについては裏面をご覧ください)

## ＜拠点認定の概要＞

本学では都市のみならず国際的な環境問題の解決および新エネルギーの創出に係る研究を重点研究課題の一つとして挙げており、これまでに太陽光エネルギーから燃料を作り出すための人工光合成研究に関しては、国内外においてトップレベルの研究成果をあげています。

この度、本学人工光合成研究センターがイニシアチブを取り、人工光合成研究に特化した共同研究活動の拠点を早期に形成すべく、文部科学省から平成28年度からの「共同利用・共同研究拠点」としての認定を受けました。



## ＜人工光合成研究センター（ReCAP）について＞

人工光合成研究センター（以下ReCAP）は、人工光合成研究の実用化に向けた新たなステージに取り組むことを目的として設立された、国内で唯一「人工光合成」の名を冠する建物設備を伴うセンターです。

先端的な光合成・人工光合成研究を進める本学教員と、関連する企業とが、これまで夢の技術とされてきた人工光合成を加速的に実現させる産学官連携拠点として平成25年6月に開所しました。ReCAPでは、最先端分析機器をはじめ、化学・生化学・低温実験室、研究者交流スペースなどが配置されており、充実した施設となっています。

開所後、ReCAP を中心とする大型研究外部資金に多数採択されるほか、民間企業との共同研究も広く進められており、人工光合成技術の社会実装に向けた研究が活発に推進されています。また平成27年度には、特別客員教授としてマイケル・ノーベル博士を招聘し、国際的な共同研究活動をさらに加速させております。今回「共同利用・共同研究拠点」の認定を受け、人工光合成研究拠点として研究開発の深化・発展への貢献が期待されています。

## ＜今後の展望＞

これまで蓄積してきた本学の光合成・人工光合成研究成果を基盤とした部門を設置し、内外から広く共同研究課題を公募・実施していきます。また定期的に光合成・人工光合成研究に関するワークショップや国際セミナーを開催することにより、国内のみならず国際的な人工光合成研究拠点としての役割を果たしていきます。

